「対話と実行」座談会　高校との座談会
第１回「高知県立仁淀高等学校」（H21.6.15）の概要

司会：ただ今より「対話と実行」座談会を始めます。本日前半の司会を務めます３年生２名です。よろしくお願いします。

開会の前に、「対話と実行」座談会について簡単に説明します。この座談会は尾崎知事を高等学校にお迎えし、私たち生徒と直接対話するという高知県の事業です。今年度最初の学校として仁淀高校が選ばれました。私たちが高知県の現状や政策についてお話を聞く機会はなかなかありませんが、今日の座談会をきっかけに視野を広く持つことができるのではないかと考えています。

（１）開会あいさつ（校長先生）

本校は総合的な学習の時間を「仁淀高校プロジェクト」と題して、「自分を知る、地域を知る、仁淀川町にふれる」というテーマの下、全校生徒で取り組んでいます。取り組むのは 28 人の生徒ですが、それぞれ高校生の目線で当地域の長い歴史と豊かな文化、少子高齢化の進む地域について、高校生の感覚、視点で捉えたもの、調べたものをまとめて発表してくれると思います。年度途中のため成果まではいかなくても、これからの進行方向等も含めたものになると思います。普段の教室では学ぶことのできない貴重な体験を積み重ねております。そういった経験を重ねることによって、自分のものとして考えられる、判断できるという素質を培っていくと考えております。今後の生徒たちの自己実現の活力になるものと確信しています。緊張するとは思いますが、生徒諸君、頑張ってください。

（２）知事あいさつ（尾崎知事）

座談会は昨年から開始し、昨年は高知県内全市町村（34 市町村）を回らせていただき、住民の皆さんといろいろなお話をさせていただきました。若い人達にも高知県全体でどういうことが起ころうとしているのか、それに対して高知県庁としてどのようなことに取り組もうとしているのかということをぜひ知ってもらいたい、そういう思いで、今年から高校生にも参加をしていただいた次第です。実は仁淀高校が真っ先に手を挙げて下さいました。皆さん参加をしてくれて、本当にありがとうございます。

「対話と実行」ということですが、どうして対話と実行なのかということについて、まずお話をしたいと思います。物事をしっかりと実行していくことは大事ですが、その前にしっかりと対話をしていくことも非常に重要だと思います。いろいろな人としっかりとお話をすることによって、その地域がどうなっているのか、どういう課題を持っているのかということが初めて分かってくる。これに対してこういう政策を実行しようとすると、必ず私は賛成、でも私は反対といろいろな方が出てきます。そういう反対と言っている方ともしっかり話し合いをして、できるだけ納得をしていただいてこそ、いざ実行する時にうまくいくんだと思います。

私は、住民の皆さん、皆さんのような若い方ともできるだけ話をさせていただいて、私の

方からは今後何をしようとしているのかをしっかりご説明をする。そしてまた皆さんからは、皆さんの思い、今どういうことを考えているかについていろいろと教えていただきたいと思います。

私も「仁淀高校プロジェクト」について勉強させていただきました。皆さんは本当に頑張っていますね。具体的な話を聞かせていただくのを楽しみにしていますので、リラックスをしてお話しをしていただきたいと思います。

最初に、高知県として一体何をしようとしているかについて、少しお話をさせていただきたいと思います。県の課題はいろいろとありますが、大きく分けて３つあると思っています。１つは経済。高知県の経済は今、ものすごく大変な状況になっています。全国のいろいろな経済の状況を見ると、最下位クラスとなっています。アメリカにあるリーマンブラザーズ証券会社の経営破綻から始まって、いろいろな経済危機が一挙に押し寄せてきました。リーマンショックにより今世界中が大不況になっています。高知県も急いで緊急の経済対策をやるということで、公共事業を追加するとか雇用対策とかを実行しようとしているところです。ただ、高知県が今やろうとしている事は、他県でも同じような問題を抱えており、同じような対策を打とうとしていることです。しかし、高知県の場合にはもう１つものすごく大きな問題があります。それは、日本全体や他県で経済がどんどんよくなっていった時でも、高知県はこの 10 年ぐらい全然よくなることができなかった。要するに高知県は経済の体力がものすごく弱くなっています。原因は、人口がどんどん減っているということ、高齢化が進んできているということもあります。やはり人口が減少すると経済も段々元気がなくなっていくわけです。経済の規模が小さくなるのだから、外からお金を稼いでこれるぐらい、貿易や県外との取り引きでお金をもっと稼いでくることができるような、そういう強さを持たないといけません。経済の体力をつくっていこうということで、一生懸命取り組もうとしているのが高知県産業振興計画です。

１ページを見ると「龍馬伝」のキャラクターを使用し、高知県の産業や経済をどのように元気にしていくかということを書いています。どういうことかというと、２ページの右上に書いてある「高知の強み」です。高知県には食べ物がおいしい、自然と歴史が素晴らしい、すごく元気な人がいるとか、様々な強みを持っています。この強みを生かして県外の人にもアピールをし、そして県外からもお金を稼いでこれるように頑張っていこう、これを産業振興計画の中でやろうとしているわけです。そのためには、県外にもっとアピールをしていくことが必要です。お金儲けができるようになるというのはかなり大変なことで、「高知県のものです。」「買ってください。」と持っていっただけでは決して売り物にはなりません。本当に売れる物にするには、消費者の皆さん方の意見を聞いて、知恵を絞って、商品を練り上げていくとか、いろいろなことが必要になります。

４ページ下左側には、高知県の経済が抱えている３つの課題を掲げています。１番目の「人口の減少により縮小を続ける県内市場頼り」これに対しては右側に改革の基本方向とし、「足下を固め、活力ある県外市場へ打って出る」と書いてあります。これを地産外商といいます。外に行き、外からもお金を稼いでこれるような経済の力強さを持っていかないといけません。左側２番目には「産業間の連携が弱い」と書いてあります。産業と産業の結びつきが非常に弱いのが高知県の特徴です。右側の「産業間連携の強化」、産業と産業でお

互いに力を合わせて取り組みを進めていこうということです。この連携を強化することで県外にも通用する、売れる物作りをしていきます。そして最後左側に「第一次産業の強みが強みでなくなりつつある」と書いてます。例えばお茶の作り手が段々少なくなってきています。できるだけ担い手を確保していくためにはどうすればよいのかという問題に真剣に取り組んでいかなければならないと思っています。

パンフレットには、今の高知県の経済の問題は何なのか、そしてそれを回復するためにどういうことをやろうとしているか、ということを書いていますので、ぜひ見ていただきたいと思います。

高知県の課題はあと２つあります。２つ目は、教育の課題です。教育については、すごく頑張っている方もいますが、人口減少、経済状況の悪化ということもあり、全国と比べると残念なところがあります。しかし、学校、生徒の皆さんがもっと頑張ればもっとよくなるという点もあるのではないかと思います。勉強がしっかりできるようになるということ、もう１つ体力の問題も全国的に比べると残念な結果です。スポーツ、体力づくりがもっとできるようになること、このような課題を解決するためには、「凡事徹底」という言葉が大切ではないかと思います。平凡なことをコツコツやっていく、毎日出された宿題をしっかりやる、復習をやる、そして分からない所は先生に聞いて補習をしていく。こういうことの積み重ねを徹底してやっていく。そういう課題について県内全体で一生懸命取り組みを進めているところです。学校の先生方は従来に比べてものすごく力を入れて頑張ってくれています。県としても、例えば予算や人の点とかで従来になく学校と手を取り合い、教育問題を何とかしたいということで取り組みを進めています。

そして３つ目が福祉の課題です。高知県ほど人口の減少が早かった県も全国の中で珍しいです。全国でも１番ぐらい高齢化が進んでいます。このように人口が減り、若者が減り、そういう県で社会福祉、例えば高齢者の方々の暮らしを支えていくということは大変なことです。人々の暮らしを守っていくためにはどうしないといけないか、全国的にやっていることと同じことをやっても、高知県では通用しないと思いますので、高知県独特の社会福祉のあり方を追求していく必要があります。「高知型福祉」という言い方をしています。

経済をもっと元気にしていかないといけません。そのためには田舎だからといって、田舎に閉じこもっていてはいけません。むしろ、田舎の良さを全国にアピールして、全国から人が来てもらえるような、高知県から持っていったものが県外でどんどん売れるような、外に出ていく強さを持っていかないといけません。これが経済の課題です。そして教育の課題、当たり前のことをコツコツやる強さをみんなで身に付けていこう。そして福祉の課題というのは、地域の実情にあった福祉、高知県の実情にあった福祉、いわゆる中山間地域と過疎地域でも通用するような福祉のあり方をどう考えるかについての取り組みを進めなければいけないと思っています。この３つの政策の基礎にあるのが、インフラ整備です。災害の多い県ですから、安全・安心を確保するために、いろいろな取り組みも進めていかなければならないと思っています。以上が、今高知県が進めている政策です。

司会：本校では総合的な学習の時間において、地域をテーマに学習を進めています。グループ別に活動している内容を発表しますので、それぞれのグループに尾崎知事、中澤教育長からのコメントをいただきたいと考えています。

（３）グループ別発表と知事、教育長のコメント

１．仁淀高校エコ応援団

生徒：僕たちは仁淀高校エコ応援団です。僕たちは昨年、仁淀川町の地域調査隊として、仁淀川町のゴミ問題についてゴミが不法投棄されていないか調べに行きました。そして不法投棄されたゴミを見つけました。昨年はそこから発展させて調べることができなかったので、今年はゴミをどのようにして減らすのか、再利用できるかを考えたいと思います。

町内に住んでいる人たちに今行っているエコな活動についてインタビューをして、どんな活動ができるかを考え、実行していきたいと思います。

まず、今考えているのは、食品トレーの回収をすることです。仁淀川町では、お肉やお総菜が入っている食品トレーの回収が行われていません。地元のスーパーに回収ボックスがあれば捨てずにすむと考えました。私たちは仁淀川町内のスーパーの協力を得て食品トレーの回収を行い、再使用できるようにしたいと思います。

次に読み終わった新聞や雑誌、チラシなどを回収してエコバックを作ろうと思っています。現在、仁淀川町のスーパーにマイバッグを持参してくる人は多くありません。そこで私たちは自分たちで作ったバッグをスーパーなどに置いてもらって、自由に持って帰ってもらえるようにしたいと思います。買い物用に工夫したものを作りたいと思います。

今年はこのようなエコ活動を多く考え、続けていけるようなことをしたいと思っています。

知事：エコバッグというのは、いろいろな地域でよくやっています。四万十の方では新聞でバッグを作ったりしているのを知っていますか。食品トレーを回収するというのはどういう話なのかもう少し詳しく教えてください。

生徒：ゴミを捨てる回数が多くなるので、そのトレーを何かに活用できないかなと思った時に、高知市内のスーパーではトレーを回収するボックスなどがあるということで、この町内でもやってみたいなと考えました。

仁淀川町副町長：町においても資源ゴミのリサイクルについては、検討をしているところです。

知事：環境問題については、例えば地球温暖化対策とかが今大問題になっています。二酸化炭素の排出量をもっと減らすということをやっていかないといけませんが、その時に一番頑張らないといけないとされているのが家庭です。工場とか自動車とかは、今までかなり取り組みを進めてきていますが、家庭の取り組みはよくわかっていないのが現状です。しかし、家庭の数はものすごく多いため、一人一人が少し怠った場合、全体として二酸化炭

素の排出量がすごく増えてしまうことになります。だから、一つ一つの家庭がしっかりと取り組んでいく、その積み重ねが膨大な二酸化炭素の無駄を省くことになると思います。食品トレーもエコバッグもプラスチックの再利用ができるので、石油の使用量を減らすことができ、それで二酸化炭素の排出量を減らしていく。皆さんも仁淀川町の中で一つ一つの家庭にこういうことをお知らせしていくというのは、いい取り組みだと思います。ぜひ結果を、どれぐらいみんなが今取り組んでいるかというのをお見せして、どれだけ改善されたかを全体として見ていったら面白いと思います。

教育長：資源ゴミのリサイクルについては、町も検討をしているので、これを契機にもっとよくなるかもしれません。

仁淀川はすごく遠くから見たらきれいです。何度来ても見る度にきれいだと思います。ところが近くへ下りていったら、ゴミ捨て場みたいになっている所もあります。ぜひ地域の人で、若い人が中心となって、遠くから見ても近くから見てもきれいな仁淀川をずっと守っていってもらいたいと思います。

２．仁淀川の水質調査

生徒：私たちは仁淀川の水質調査をしています。15 年度から行っている調査ですが、目的は仁淀川について調査して、川を知って環境を守っていこうということで行っています。調査項目は４つあり、まず科学的水質調査をしています。一般の水質基準項目のＤＯやｐＨなどの他にもＮＯ３などで水質浄化作用などの強さなども計っています。計る方法は簡易水質計を使って計っています。

２つ目に透視度について調べています。透視度の計り方については、二人ぐらい水に潜ってそれぞれの川の透明度を計るという方法です。方法は、プランクトンネットのヒモを用い、水に潜って色のついた棒が見える位置まで近づいていき、見える位置を測っていくという方法です。この結果としては、仁淀川が大体 3m、長者川が 4.5m、池川が 6.5mぐらい見えるということです。冬の透視度調査については、川が寒いので今後の課題としています。

３つ目にプランクトンについて調べています。プランクトンは先ほど出てきたプランクトンネットを川に沈めて引っ張ってきて採取するという方法です。クチビルケイソウ、フナガタケイソウとか緑藻というプランクトンなど、他にもいろいろ採れています。でも、水が溜まっている仁淀川の方にしか余り生息していないみたいです。

もう１つ水生昆虫について調べています。水生昆虫は水質を指標するもののひとつとして計っていて、捕った昆虫は全て指標として私たちは計っています。昆虫はこの写真にあるようなものが捕れたりしています。

今後の課題としては、他の川についてのエリア拡大や、調査方法の改善、そしてもうすぐ廃校になるためにこの調査が継続できないということで、継続についても課題としています。

知事：（透視度調査は）水平にやるんですか。

生徒：はい、そうです。川に対して垂直に、３方向と並行に３方向というような感じで調べています。

知事：水生昆虫で、採取した昆虫を指標に水質を見るというのは、こういう虫がいる所だったら水がこのようにきれいと分かるということでしょうか。

生徒：大体分かります。写真Ａの昆虫は、本当にきれいな川にしかいないような昆虫なので、きれいな川という証拠になります。この辺の川では結構見られる昆虫です。他の写真Ｂ・Ｃはちょっと汚い川でもいるとか、そういうふうに結構分かれています。

Ａ　　Ｂ　　Ｃ

知事：何年間か続けてきて、昔のデータとかも見たことありますか。仁淀川が段々どうなっているのか。きれいになっていますか。

生徒：平成 15 年度から調べていますが、きれいにというか、平均的にこのような数値が出ている感じです。

知事：仁淀川のような自然を全国の人にも知ってもらいたいし、逆に全国の人にも地元の人と一緒に大切にしてもらいたいと思います。

もうひとつ仁淀川が全国ナンバー１なことがあります。水質とかだけではなく、関連でいろいろ調べてみたら面白いですよ。仁淀川は１km 当たりの夏の水遊びをする人の数、全国第１位の川です。これは１位だったり３位だったりもしますが、何度か１位になったことがあります。沿線の人口がそんなに多いわけじゃないですが、人に親しまれる、きれいな川だということです。素晴らしいです。もっと調査を重ねて大切に守っていきたいと思います。

エリアの拡大というのは、どういう課題があるんですか。

生徒：今は主に、長者川と仁淀川とに分けて調査しています。他のダムがある所、ダムの中、さらに上流、他の似たような川とか、そういう場所も調べていきたいし、結果の比較もしていきたいということで、エリア拡大としています。

教育長：調査し、今後の課題ということで上手にまとめていると思います。次なる課題は何かということもきちんと把握をおり、素晴らしいです。

課題として書いたら実行しないといけませんが、冬どうしますか、潜りますか。冬の水質

は、雨の影響が少ないから、実は一番確かなデータとして取りやすいんです。一般的には課題と書いたら克服しないといけなくなりますが、期待をしてます。

生徒：頑張ります。

知事：体には気をつけて下さい。

３．地域再生（茶畑再生班、地場産業）

生徒：まず最初に、茶畑再生の発表を始めます。昨年の活動報告をします。最初に茶畑を借りる。これはお茶を管理することができないお年寄りから、荒れた茶畑を借りました。地権の問題で借りるのに苦労をしましたが、何とか借りることができました。再生については、まずお茶の周りの草を全部刈ることから始まりました。それからお茶を膝ぐらいの高さと背ぐらいの高さに刈り分けました。炎天下の中、とても大変でした。２カ月ぐらいでようやく終わりました。

次においしいお茶の入れ方について調べました。そしてその入れ方で実際に市販のものと再生したお茶畑のお茶を飲んでみました。再生したお茶畑のお茶は、まだまだおいしいお茶とは言えませんでした。

次に今年の活動計画を発表します。まず茶業試験場でお茶摘みをすることです。これは常に行っており、おいしいお茶を摘むことができ、できたお茶も飲みました。次に再生したお茶畑のお茶を摘んで飲んでみることです。昨年の物と飲み比べて味が変わっているのか調べたいと思います。それと茶畑の管理です。来年、今年よりおいしいお茶ができるように維持管理したいと思います。

最後に「魔女の手揉み茶」として販売し、仁淀高校の名前を残したいと思っています。

生徒：私たち３人は地場産業について調べます。昨年の活動目的は「地域の方々と触れ合いながら、仁淀川町の良さを再発見する」でしたが、今年度は昨年の活動目的プラス料理研究をする予定です。取り組み内容はトマトやマッシュルームを栽培している農家へ取材に行き、取材した作物で商品開発に挑む。またその商品を町内で売り、町民の人に知ってもらうことです。

知事：仁淀川のお茶は、知る人ぞ知る素晴らしいお茶です。かつては、静岡のお茶と一緒に混ぜて売っていました。仁淀川のお茶の葉っぱがあるので、静岡茶として売ってるものがものすごくおいしくなったと言われています。そのくらい、仁淀川のお茶はすごいんだそうです。昨年の「対話と実行」座談会で教えていただき、産業振興計画 15 ページ、16 ページに地域アクションプランということで、仁淀川流域茶のブランド化を書いています。皆さんのやろうとしていることと一緒です。昔はお茶をどんどん作り、静岡と一緒にどんどん売れていました。しかし、ペットボトルなどが出てきて販売が厳しくり、全体のお茶の

生産量が少なくなりました。元々ものすごくよい品質のものだから、それならば、さらに磨きかけてブレンドではなく、自分たちのブランドとして販売していこうという活動をこれから進めていこうとしています。他方で仁淀川町でお茶を作るというのは、地形がすごくきついので大変です。そういう所に若い人をどれだけ確保できるかという課題もあります。元々は全国に誇れるすごいものなので、その課題を克服し、ぜひ仁淀川茶を全国の人に知ってもらいたいと思います。

茶畑再生は大変だったと思いますが、お茶摘みなど茶畑で作業をしていて、素朴に思ったことはありますか。体がきついと思ったりしましたか。

生徒：やはり地形がきついので、上がったり下りたりしていたら足が疲れてきます。

知事：お年寄りでやっておられる方は偉いですね。逆に若い人が助けてあげないといけません、頑張ってやっていきましょう。

お茶を最初に飲んだ時は、どうでしたか。

生徒：他のお茶と飲み比べてみましたが、やはり何か硬いというか、そんな感じでした。

知事：私が茶業組合で飲ませていただいた時には、本当にすっきりしていて、これはおいしいなと思いました。大阪でスーパーやデパートの方に商品を見ていただき、その場で取り引き、契約を結んでいくという商談会をやりました。その時に仁淀川町の茶業組合の方が売り込みをしましたが、かなり好評だったようです。この地域にあるお茶は、大阪や全国でも通用するものだから、本当に地域の宝だと思います。皆さんも研究を進め、その先の発展に向けて頑張っていただきたいと思います。

地場産品の料理研究では、どういうおいしい食べ物がありますか。トマト、マッシュルームの他にプラスアルファというのは何ですか。

生徒：プラスアルファというのは、仁淀川町でまだ誰も知らない、まだ発見されていない物を自分たちで探してみようということです。

知事：商品開発の構想はもう頭の中にできていますか。

生徒：企業秘密です。（会場笑い）

知事：皆さんが作った物を広くいろいろな人に知ってもらえるようになったらいいですね。マスコミの皆さん、ぜひよろしくお願い申し上げたいと思います。

大学生の方の話で、自分たちで企画して作ったお弁当を、コンビニエンスストアと協力して売っていくということをやりました。男性のチーム、女性のチーム、男女混合チームとか、いろいろなチームを組んで、それぞれがいろいろな地産地消弁当を作り、それをコンビニエンスストアで売ったそうです。そしたら、本当のプロが作った商品より売れたそう

です。やはり心がこもっており、地元ならではの良さ、知らない所にこういうおいしいものがあることを知って、みんな驚きもあったりするのかもしれません。ぜひ頑張っていただきたいと思います。
　まず、町内のお店に置いてもらい、できれば町内の皆さんを巻き込んで、新しい特産品づくりの場に繋がっていくといいですね。頑張ってください。

教育長：昨年のお茶と今年のお茶を飲み比べるというのはどのようにやるんですか。昨年のお茶を１年間おいておき、新茶と去年の茶を飲み比べたら新茶がおいしいに決まってますよね。それをどうやって比べるのかと思って。

生徒：番茶で比べます。

知事：去年の味を覚えているんですよね。

生徒：はい

教育長：自分の舌が物差しなんですね、分かりました。
　商品開発は企業秘密ということで、楽しみにしています。秘密をオープンにする時にはぜひ私に連絡してください。

知事：このような取り組みは、産業振興計画の中でも一生懸命取り組もうとしていますが、独特の難しさを感じたことはありますか。こういうことが何とかなっていれば、こういうことがなければもっとうまくいくのにとか、もっと早くできるのにとか、率直に。

生徒：人が少ないということです。

知事：一緒にやろうという人の数が少ないということですか。

生徒：お年寄りの方が多いので、傾斜の険しい所だと栽培がしにくいかなと思います。

知事：余り量ができないということですね。たくさん作ろうと思っても作れる量が少ないということですね。

生徒：トマトは県外に出荷するぐらい価値があります。しかし、すごく高く、量が少ないため、町民の方にはなかなか手に入りません。もっと自分たちの手にも入ってくるような感じで、何かできたらと考えています。

知事：一般的に量が少ないと、高い価格で売れるものでないと所得にはなりません。希少価値が上り、量が少なくても高い価格で、全体としてたくさんお金が稼げるというふうにし

ていかないといけません。でも地元の人の口にも入れたいようならば、少し取っておくようにするのかな。

いいものがあっても量がたくさん取れない、これは高知県全体の課題だと思います。だから、産業として雇用拡大とか所得を生むことにはならないです。逆に、希少価値のある高付加価値のものにしていくことが大切ということを今議論しているところです。産業振興計画９ページにそういう話を少し書いています。「産業間の連携による高付加価値化の推進」こうすることで、いろいろな本県の強みを生かし、また弱みも克服して、県外にも出していけるようにしようと進めています。

皆さんの悩みは高知県全体の悩みだと思いますので、皆さんのアイデアで本当に素晴らしいものを出してもらいたいと思います。

～　休　憩　～　（お茶と緑茶クッキーの試食）

お茶は先月全校生徒が茶業試験場で摘んだもの。

緑茶クッキーはそのお茶を使用して作っています。緑茶クッキーは仁淀川町観光センターで商品化され、販売しています。

司会：これから後半の発表を始めます。後半の司会の３年生２名です。よろしくお願いします。

４．郷土料理の伝承

生徒：私たちは総合学習で、郷土料理の伝承というテーマをもとに活動しています。現在の食生活は外食産業に頼っています。この原因を探ってみると、料理ができる人が少ないからだと気づきました。このまま皆が外食産業に頼ってしまうと、ふるさとの伝統的な料理を忘れてしまうと思います。なので、私たちは郷土料理を調べ、実習をして、どのように伝えていくかを考えることにしました。

はじめに、去年つくったものを紹介します。私たちはまずどの家庭でもあるホットケーキミックスを利用して、よもぎ餅を作りました。作り方は、よもぎの葉を粉末状にしておき、そのよもぎの葉と卵、牛乳、砂糖、ホットケーキミックス、上新粉を耳たぶの硬さになるまで混ぜ合わせます。中に包むあんこを丸め、チーズを型抜きして準備します。そして、あんこ・チーズを生地の中に包み込み、形を整えます。後はフライパンで焼くだけなので、皆さんもぜひ作ってみて下さい。

次に、煮しめを作りました。煮しめには、日頃不足ぎみなゴーヤやニンジンなどの根菜類を入れるといいでしょう。僕たちは豆腐も加えました。

次に、豆腐を作りました。豆腐作りは地域の方で、以前豆腐屋さんだった方に教えていただきました。大豆は洗い、１日漬けてふやかしておきます。水を加え、ミキサーにかけて

クリーム状にします。クリーム状になったものを火にかけ、十分煮込みます。火にかけたものを絞ってできた汁が豆乳です。残りかすがおからです。その豆乳を容器に入れ、にがりを加え、重石をして時間をおけばできあがりです。

次に、豚汁と炊き込みご飯を作りました。豚汁はその地域独特の材料を使うといいでしょう。根菜類も多く使い簡単に作ることができるので、伝えていきやすい料理だと思います。

次に、私たちはこの町のお茶で何か作ることができないかと考えました。そこで、一般的にはお茶は飲むものですが、お茶を使ったお菓子を作ってみることにしました。昨年、高知情報ビジネス専門学校の先生に来ていただいて、お菓子の作り方を教えていただきました。そのとき教わったマドレーヌの作り方を工夫して、仁淀川町の特産のお茶を現代風にアレンジし、抹茶のフィナンシェを作ってみました。これがハート型に焼いたフィナンシェです。

その他に緑茶クッキーも作ってみました。仁淀高校は２年後に廃校になるので、何かの形で学校の名前が残せたらと思って商品化を考えました。学校での販売は難しいので、仁淀観光センターに依頼することにしました。

私たちは先日、総合学習活動で茶摘み体験をしました。そのときに摘んだお茶を煎って揉んで、お茶を作りました。試飲してみた感想は、少し苦かったけど、おいしかったです。このお茶を調理しやすいようにすり鉢ですって粉末状にしましたが、茶葉が軽くて周りに飛び散ったりして大変でした。緑茶クッキーの売れ行きは好評のようです。仁淀観光センターの方のご協力で、地域で行われる秋葉祭りや太鼓祭りなどの行事でも店頭販売をしていただき、そのときもすぐに完売したそうです。販売のときには仁淀高校生が作ったポスターを置いていただいています。観光センター内でも売っていただいていますが、作ってもすぐに売れてしまうので生産が間に合わず、店にない日がほとんどということです。この人気絶頂クッキーを先ほどの休憩時間に試食していただきましたが、いかがでしたか。さっぱりしていて、おいしかったと思います。

外食産業に頼ると添加物や化学調味料がたくさん使われ、栄養障害が起こる可能性が増えてきます。食品など安全に対する問題も多発しています。また、昔から受け継がれてきた料理が継承されにくくなってきています。加工食品に頼りすぎる食生活を改善するためにも、今回実習した料理などを自分たちで手作りし、添加物の少ない食生活を心がけ、昔からの郷土料理をもっと習得して、後生に伝えていきたいと思います。そして、お茶などの仁淀特産物を利用し、地産地消にも心がけていきたいと思います。

教育長：私も中学校の家庭科の時間に料理を作りましたが、結構おもしろかったです。しかし、今は全然作ることがありません。最近の若い人は男性でもいろいろな料理を作っているし、将来、もしかしたら仁淀地域を離れるかもしれませんが、離れても今勉強したことはずっと残っていくと思いますから、大事にしてもらいたいと思います。

それから、緑茶クッキーがすごく人気があるということなので、増産はできないですか。

生徒：従業員が少ないので、たぶん無理だと思います。

教育長：残念ですね。本当においしかったです。お祭りの際に売っているということですが、名物になったらいいですね。期待しています。

知事：高知県は、旅行客の皆さんに取ったアンケート調査で、カツオのタタキをはじめとして、いろいろな食べ物がおいしかったところ、2007 年全国第１位だそうです。2008 年は全国第２位だったそうです。全国各地に行っている人に聞いてみたときに、高知県は一番だったと言われて、結局、いろいろなところに行ったらいろいろな土地土地のおいしいものがあるというのが、全国的にも高い評価を受けているところだと思います。だから、仁淀川町ならではのおいしい食べ物をずっと伝え続けていくこと、更に新しいものを開発していくことは大切で、特に武器にしていかないといけないと思っています。

この中で昔からあるものはどれですか。煮しめとか豚汁、ショウガの甘露煮も仁淀川町の郷土料理として伝承していこうというものですか。

生徒：はい。

知事：緑茶クッキーを作るに当たって、どういうことを工夫しましたか。これだけ売れるということは、何か秘訣があるでのはないですか。

生徒：工夫したのは、お茶をすって入れるところです。

知事：お茶というとかなり苦い場合が多いけど、この緑茶クッキーはあんまり苦くなくていいなと思いました。地元のものを使って、加工して売っていく。そうすることでお茶の価値がもともとの価格の何倍にもなって売れたりします。本当に売れるようになってきたら、人を雇って作る量をもっと増やそうという話になってきます。それが地域の産業の発展ということだと思います。そういう形で頑張っていただきたいです。

ちなみに、仁淀川町で郷土料理はどのぐらいの数ありますか。独特の料理は 10 や 20 じゃないんでしょうね、100 や 200 はありますか。郷土料理を伝えていくことは高知の文化を伝えていくこと、高知の強みを伝えていくことだと思いますので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

緑茶クッキーの商品名は。これが本当のパッケージですか。

生徒：これがそうです。

知事：パッケージには緑茶クッキーより仁淀高校の方が大きく書かかれているんですね。商品名は仁淀高校っていうんですね。すばらしい。

５．仁淀川流域の方言調査

生徒：仁淀川流域の方言調査は今年で６年目になります。昨年までの５年間で、仁淀川町内の 17 カ所と愛媛県久万高原町にフィールドワークに行きました。水色が仁淀地区、赤色が吾川地区、紫色が池川地区です。

調査で大変なことはお年寄りを捜すことです。方言調査には、生え抜きの方が望ましいとされています。生え抜きとは、その土地で生まれ、引っ越しを経験していない人のことです。でも今の時代に一度も引っ越しをしたことがない人を捜すのはとても難しいので、18 歳までに一度も引っ越しをしていない人も生え抜きとしています。

仁淀川町は高知県の中でも比較的方言が残っている地域だと思います。これまでの調査結果の中から方言を幾つか紹介します。トウモロコシを何と言いますか。

トウモロコシは仁淀川町全域で「キビ」「トウキビ」と言います。トウモロコシを粉にしたものを「コンコ」「ハナゴ」と言います。「コンコ」はトウモロコシを乾燥させて粉にしたもの、「ハナゴ」は煎って粉にしたものだそうです。また、ポップコーンのことを「ガンガ」と言います。

（目にできる）ものもらいは「メイボ」「メーボ」「メボウ」と、地域によって少しずつ違いがありました。一番多かったのは「メーボ」です。ものもらいの治し方を聞くと、髪の毛や馬の尻尾の毛を涙穴へ差し込んで治す方法を教えてもらいました。ちょっとやってみるのには勇気が要りますが、本当にすぐ治るそうです。

（くるぶしを）「カイフ」あるいは「カイフのコッポ」と言います。「コッポ」とはこぶのことだそうです。高知県で一番古いくるぶしの言い方は「トリコノフシ」と言うそうです。秋葉神社近くの別枝というところでは、この「トリコノフシ」を聞くことができました。別枝には他にも古い言葉が残っているかも知れません。

今年度で調査は最後になる予定なので、あまり調査していない吾川地区、池川地区にフィールドワークにも行きたいと考えています。そしてこれまで調査してきた結果をまとめて、小さい本を作りたいと思っています。録音した内容を一字一句文字化することで、少しでも方言を記録していきたいと考えています。

教育長：方言の調査は大変おもしろいと思います。方言というのはアクセントもあるし、呼び名もあります。おもしろいと思います。皆さん方がそれぞれの地域へいって聞いて残したものには、高知県方言辞典にもないようなことがあると思います。それは今調べておいたらおもしろいかも知れないですよ。感心しました。

知事：確かに皆さんが調べたことは、そのまま高知県方言辞典を修正あるいは追加することにつながっていくかも知れません。だとすると、ずっと残っていくことになりますよね。

これはどのように調査しているんですか。自由に話をしてもらうんですか。例えば、くるぶしのことを「トリコノフシ」と言うということについて、くるぶしの話題にならないと出てこないでしょう。くるぶしを話題にすること自体がものすごく難しいような気がしますが、そのあたりの調査方法が難しそうだなと思いましたが。

生徒：こちらでいろいろな質問を考えて、それをお年寄り方に昔風に言ってもらうようにしています。

知事：いろいろな質問をするわけですか。その質問の仕方が腕ですね。くるぶしって何と言うんですかって聞くわけではないですよね。大体当たりがあるのかな。

生徒：これは何ですかって聞いたりもします。

知事：なるほど。６年目の調査になってくると、５年目までずっと調査をしてきたので、大体全て聞いて終わったかなみたいな感じもしないでもないですけど、まだまだでしょうか。まだ新しい発見がありそうな、そんな感じですか。同じ言葉でも、仁淀川町の中で地域によって違ったりしますか。

生徒：はい。吾川地区、仁淀地区、池川地区でも違います。

知事：高知県方言辞典にも書いてないこともたくさん出てくるでしょうから、これは偉大な作業だと思います。ぜひ頑張って下さい。

６．地域活性化（もっともっと知って仁淀）

生徒：題名は「もっともっと知って仁淀」です。まず、僕たちは仁淀の祭りを紹介したいと思います。仁淀には有名な秋葉祭りがありますが、長者地区で行われる祭りを紹介したいと思います。まず毎年６月に「しょうぶまつり」が行われます。今年の「しょうぶまつり」では、花鳥踊りという踊りを実演しました。花鳥踊りは途絶えかけていますが、僕たち高校生が練習して復活させました。この花鳥踊りを途絶えることなく、次の世代に残していきたいと思います。

もう１つの祭りには「キャンドルナイト」というのがあり、大学生が主催で、僕たちも参加しています。「キャンドルナイト」は地域の人と大学生が連携して、地域活性化のために行われています。どんな祭りかというと、地域の人がみんなで準備し、長者の棚田に毎年の西暦と同じ数のキャンドルが並べられて、夜になるととてもきれいです。地域の食材で作られた食べ物も売られていて、たくさんの人が見に来てくれています。

次に「てっぺんトマト」を使った地域活性化についてです。取り組みとして、「てっぺんトマト」を県内で広めたい。理由は「てっぺんトマト」は一次産品なので、ほとんどが県外へ出荷されてしまうからです。県内で広めるために料理として出してもらうなどしたら、地域活性化につながるんではないかと考えています。次に「てっぺんトマト」がどんなものか紹介します。普通のトマトは糖度が５度ほどなんですが、「てっぺんトマト」は糖度が８度～10 度もあり、非常に甘いです。なぜこのようなおいしいトマトができるのかというと、作り方に秘密があります。水分補給を極限まで抑え、トマトの生きる力、種を残そう

とする力を活かすことによって本当においしいトマトを作りだしています。
　私たちはお茶の商品化について考えました。どうしてお茶がおいしいのかと考えたときに、茶葉が育つ環境が最適だからです。水と土と気候といった条件が揃っています。そのおいしく元気に育った茶葉は、丁寧に手揉みされ、商品になります。そして仁淀の自然が育んだおいしい水でお茶を入れると、最高の味のお茶を飲むことができます。
　次に、仁淀の人みんなが使えるインターネット整備について考えました。高知県内においても仁淀のお茶を知っている人はそんなに多くありません。また仁淀川町自体どこにあるか知らない人も多いです。そこで私たちは仁淀川町を知ってもらうために、インターネットを通じて宣伝していくことが必要だと考えました。しかし、仁淀川地域にはインターネットを使えない人も多くいます。その人たちのために着目したのがインターネットの簡素化です。
　仁淀のお茶を海外へ。私たちは全世界の人たちに仁淀川のお茶を知ってもらい、飲んでもらいたいと思いました。仁淀川町のお茶も味はおいしいという自信はあります。しかし国内には静岡や京都のお茶がブランド化されて有名なので、対抗するのは難しいと思います。そこで私たちは日本国内に限定せず、世界に視野を広げてみてはどうかと思いました。

教育長：いろいろやってみようということで、「てっぺんトマト」を使った地域の活性化、あるいは仁淀のお茶を海外へとか、着目しているところは非常におもしろいですね。着目をしたけれども、じゃあ実際にどのようにしていったらいいのだろうかと。多分、課題は 10 や 20 では収まらないと思います。ぜひ、それをみんなで考えてもらいたい。もしかしたらその中からうまくいくものが出てくるかも知れません。それから、棚田のキャンドルナイトもおもしろいですね。私は高知城の石段にしているキャンドルナイトを見ましたが、棚田でやるのもきれいだろうなと思います。ぜひ見に来てみたいなと思いました。

知事：「てっぺんトマト」の話については、県外では売れてるけど、県内には入ってこないからまず県内で広めたい。なぜ県内に入ってこないと思いますか。

生徒：一次産品だから、県内より県外に出荷した方がやはり売れるからではないかと思います。

知事：一次産品でも全部が県外に行ってるわけじゃないです。県内にも県外にも行くもの、両方もあると思います。県内向けにということを生産者の皆さんに聞いてみましたか。

生徒：聞いてないです。

知事：ぜひ一度生産者のご意見も聞いてみたらいいかも知れません。もしかしたら、たくさん生産できるのなら県内にも県外にも持って行くことができるかも知れませんが、少ししか生産できないのでやはり高く売れる方に売っていきたいというのはどうしても出てきます。地域活性化につなげていくという視点からいけば、どうやってその商品の良さを知っ

てもらって、それを正当な値段で買ってもらえるか。その商品にふさわしい値段で買ってくれる人を見つけられるか。見つけた人にずっと先々まで買ってもらえるようにするにはどうすればいいか。そういうところが重要じゃないのかなという感じがします。例えば生産量がものすごく多くて売れない、だから身近な人にもっと良さを知ってもらいたいという意味で県内に広めたいということもあると思います。仁淀川町が茶所ということについて、町の皆さんはよく知っていますが、高知市内でも知らない人は結構いるかも知れません。静岡のお茶っておいしいなと思って飲んでいたら、実は仁淀川町のお茶がたくさん入っていたとか。「ブレンドからブランドへ」と売り出してることがまだ知られていないかもしれません。県外の人にも知ってもらいたいですが、高知市内、高知県内の他の地域の人にも知ってもらいたいですね。「てっぺんトマト」、それからお茶にしてもその素晴らしさというのをぜひ仁淀川町の中だけじゃなくて、地域外の人たちにどれだけ知ってもらえるかという活動、それが非常に重要だと思います。ぜひ若い皆さんとか友達同士口コミで広げていくのもあるだろうし、いずれは例えば商品化してマスコミさんにも協力してもらって売り込んでいくこともあるだろうし、頑張っていただたきたいと思います。

インターネットの簡素化とはどういうことですか。

生徒：簡素化をすることにより、地域間のコミュニケーションを取ったり、情報を共有することで、もっと多くの人に知ってもらうことができるかなと思いました。

知事：簡素化というのは、パソコンの操作とかを簡単にするような機械を作るとかですか。

生徒：はい。

知事：徳島県の上勝町をご存知ですか。

生徒：知らないです。

知事：徳島県に上勝町というところがあります。葉っぱビジネスといって、よくお料理につまもので置いてる葉っぱが高く売れるんです。徳島県の南の方の町は昔は何もないと言われていましたが、よく考えると葉っぱがあるということで、お料理のつまものに葉っぱを売っていこうと一生懸命やって大成功したとこなんです。そこは高齢者の方がほとんどですが、そこの皆さんは毎日の注文を受けて、売っていくということをコンピュータを使用し、管理しています。でも、それは高齢者の皆さんでもできるようにするために、例えば字を大きくしたりとか、パソコンのシステム自体をものすごく簡単にしているそうです。これ、ものすごく勉強になるケースだと思います。地域活性化というと馬路村とか、さっき言った上勝町とかをよく参考にしたりします。地域で一見何気ないもののように思っていたものが実は価値があって、しかもその価値を地元だけじゃなくて県外に発信をして、県外からお金を稼げるようにしていく。そのためのインフラ整備ということで、使う人の立場になったインターネットのやり方を考えていく点において、ものすごく勉強になるケ

ースだと思います。皆さんがやっておられる、やろうとしていることにすごく参考になるのではないかと思います。今後勉強をされる上でぜひ参考にしていただきたいです。やはり若い人から見ると高齢者の方がインターネットを簡単に使えるようにすればいいという視点があるんでしょうね。改めて、なるほどと思いました。

キャンドルナイト。大学生と一緒にやってるんですか。お客さんを呼んでくるにあたって、何か苦労したことはありますか。結構人が来るらしいですね。どうしたら、たくさんの人が地域のイベントに来てくれるかというのは知恵の使いどころですね。

教育長：普通のトマトの糖度が５度、「てっぺんトマト」の糖度が８度～10 度と調べてくれていますが、じゃあメロンはどうなのか。他の果物や野菜と比べてみたらいいと思います。「てっぺんトマト」がどのくらい甘いかと聞かれたときに、普通のトマトより糖度で２度～５度甘いと言ってもわからないと思います。10 度ということは、メロンよりも甘いかも知れませんね。

生徒：確か 10 度はスイカと同じぐらいの甘さだったと思います。

知事：スイカと一緒。それはすごいですね。

７．意見交換会

生徒Ａさん：なぜ仁淀高校が廃校になるのかを聞きたいです。

教育長：大変痛いことを聞かれました。一番聞かれたくなかった質問です。やはりあまりにも生徒の数が少なくなってきた。もうこれに尽きます。置いておきたいんですが、あまりにも学校の規模が小さくなってくる。高校生として成長していくためにはある程度の人数がいないと生徒の成長に結びつくのが難しい面が出てきます。もちろん小さい方がいいこともあります。ありますが、あまりにも小さくなってきたので、どうしても維持ができなくなってきたということです。胸が痛みます。今の発表も聞いていまして、せっかくここで皆さんが頑張っておられるのに残念ですが、そういうことで廃校するということになりました。

知事　３年生と２年生が何人ですか。

生徒Ａさん：３年生が 20 人、２年生が８人です。

知事：20 名と８名ですね。県立高校の存続については、教育委員会の話で私が答えてもいけないのかも知れませんが、私の考えを言わせていただきます。今３年生が 20 名います。２年生８名。そしたら１年生が何人になるのか。だんだん人数が少なくなってきますよね。

そのときに１学年で、例えば８人、20 人だったらいろいろなことができた。８人でもまだいろいろできる。ですが、１年生、２年生、３年生を合わせても非常に人数が少なくなったときに、例えば今のように力を合わせて共同研究をしようとしてもだんだん限界も出てきたり、ということもあるのではないかな。それから特に高校生ぐらいの時代というのは、集団の中でどのように生きていくのか、人間関係をどのように作っていくか、そういうことが非常に重要な時期だと思います。そういうときに人数の少ないところにいて、しかしこれから社会に出たら何十人、何百人という人たちの中で仕事をすることになるわけです。やはり一定の人数のいるところで授業とかいろいろな活動をしていった方がいいんじゃないかなということで、ある程度以上人数が集まらない場合には高校は廃校にしていくという形、統合・合併をしていくということでやってきているんだと思うんです。

寂しいですよね。私たちだって好き好んで統合とか廃校をしているわけではないです。生徒さんが少なくても残すべきだというご意見もあるかもしれません。一つには生徒さんが少なくても残していくとなると、学校を運営すること自体、人の点でもお金の点でも大変だということもあります。もう一つは先ほど言った教育効果という点です。そちらの方が大きいと思います。寂しい気持ちはよく分かります。できればやりたくないし、そういう高校が増えることは残念だと思います。私も「対話と実行」座談会に行ったら、あちこちでものすごく怒られます。できればやりたくないことです。

生徒Ｂさん：今の廃校のことに関連してですが、廃校になるのはもう分かっていることなんですが、この校舎はどうなるんですか。

教育長：校舎がどうなるかについては、最終的には決まっていません。この土地は県が民間の人からお借りをしています。県が借りる約束としては、学校を建てて学校をやるために借りているため、それが終わったらもとの更地にして返すというのが原理原則です。校舎がなくなる可能性もあります。今後は土地の持ち主とのお話になりますので、最終的にどうするかは決まっていませんが、その可能性が高いです。

生徒Ｂさん：今の２年生が卒業してもすぐ取り壊すというようなことにはなりませんか。

教育長：すぐ取り壊すことになるかもしれません。県の土地ではありませんので、土地の持ち主とお話をしなければなりません。

生徒Ｃさん：知事になるにはどうしたらいいですか。

知事：ちょっと答えに窮しますが、当然選挙に出ないといけません。政治の世界というのは図ってなれる、なる、ならないとかいうものじゃないのかも知れません。私の場合、10 代、20 代は政治家になりたいと思ってましたが、30 代になってからはずっと財務省というところで仕事をしてましたので、そのまま東京で仕事をするのかなと思っていました。いろいろな人に選挙に出ないかと言われたこともありましたが、お断りしていました。今回の知

事選挙には、いろいろご縁もあって、思い切って決断をして、出させていただきました。知事になるため、おおよそ政治家になるためにはどういうことをしないといけないのか、自分自身が足りてるかどうかは別の問題として、２つはあるかもしれません。１つはいろいろと幅広く勉強しておくことが必要かもしれません。政治家はこの部分だけという仕事をするわけではなく、いろいろなことを取り扱っていかないといけないので、文系の世界も理系の世界もいろいろな勉強をしていく。まだ私も勉強が足りていないので、続けています。それともう１つ、いろいろな人とお付き合いすることかもしれません。いろいろなタイプの人と友だちになり、お話をしたりして人間関係を作っていく。それがまた政治への世界のきっかけになるかもしれませんし、何よりもそうすることで視野を広く保つことができるのかもしれません。そういうふうに思います。

生徒Ｄさん：県庁で仕事をするときに、一番大変なことは何ですか。

知事：大変なことはいろいろとありますが、一つのものごとについて、いろいろな意見が出てきます。この人に聞いたらこういう意見、この人に聞いたらこういう意見だった、じゃあどうしてそういう意見が出てくるかというその背景が違います。今のことを考えてそう思っている人もいれば、先々のことを考えてそう思っている人もいるし、自分の地域のことを考えてそう思っている人もいれば、高知県全部のことを考えてそういう意見を言う人もいる。一つの課題についてそれぞれ背景の違ういろいろな意見が出てきます。その中でこれはこの道でやっていくと１つ決めないといけないときがあります。それは一部の意見の方には明らかに反対意見になってしまうかもしれませんが、多くの皆さんの賛同を得られるものなのかどうか、そのあたりも見極めながら決めていかないといけません。何よりも今のことも大事ですが、先々の高知県にとっていいことかどうかを見極めて決断していかないといけません。ものごとを最後に決断していくときが一番大変なときです。いろいろな人がおっしゃっている、いろいろな意見があるのに対して、それぞれの意見の後ろにある理由は何なのか、データはどういうことなのかを全部調べて、それを最後にこの意見についてはこういう良いところ、悪いところがありますというのを整理をして、ものごとを決めていきます。いろいろな意見の中からものごとを整理し、最後に決めていくことがやはり大変です。決めたことが正しかったかどうかは、いずれ結果が出てくることですし、そこを決めていくのが大変です。

生徒Ｅさん：知事さんの高校生活はどうでしたか。

知事：私の高校生活は、多分一番しんどかったです。悩んでいました。身近な勉強に意義が見出せなくなったというか、何のためにこんな勉強をするのかが見えてなかったと言いますか、その部分がものすごく大変でした。大学受験を目指して勉強していましたが、勉強して先にどうなる、例えば、こういうことは高校生の前で言ってはいけない、教育長に怒られるかもしれませんが、英語が大嫌いだったんです。とにかく英語が嫌いで、なぜ「アヒルが池で泳いでいます。」みたいなことを覚えないといけないのかと。そんなことを覚え

ても意味がないじゃないかと思っていました。いまいち見出せず、結局大学に入る前に一度浪人をしました。一旦浪人をしたら、今度２浪したら嫌だという気持ちで必死に勉強して大学に行きました。大学に入って、今度は社会人になって、何のために英語を勉強しないといけないのかがよく分かりました。社会人になってから一生懸命英語を勉強しました。例えば、仕事をしていると日本ほどの大国になってくると、世界との関わりなしには生きていけないわけです。仕事をしていてもだんだん英語が出てくるようになってくる。さらに、少し留学をさせていただいたことがありましたが、韓国の人も中国の人もどういう人達にしても、英語がしゃべれるかしゃべれないかで、そこから先もっと上の勉強ができるかどうかが全部決まってきます。仕事の上でも、さらに人との付き合いでも、勉強の面においても、とにかく英語ができるかどうかみたいなところがものすごくあるということに気が付きました。それで何のためにあのとき英語を勉強しないといけなかったかがよく分かったから、勉強するようになりました。当時の僕は幼かったので、そこが分かっていなかったようです。生意気なことを言って申し訳ないですが、皆さんがなぜ自分はこんなことを勉強しないといけないのかと思ったときには、ぜひ大人に聞くことをお勧めしたいと思います。「意思もむなしく応仁の乱」1467 年と覚えることに何の意味があるのかと思うかもしれませんが、1467 年に応仁の乱が起こった結果、当時の足利幕府が崩壊し、後々の戦国時代が起こり始め、最後は豊臣秀吉が統一するまでこの時代が続いていくのだと。「ひとむれみちる江戸幕府」江戸幕府の開府に至るまで、1603 年までこういう混乱の時代が続いていく戦国時代です。けれど、この時代はみんなが競争しているのでどんどん経済も発展していったし、経済成長がすごかったから、人口がものすごく増えているんです。むしろ、それ以降の江戸時代に伸びていく基礎を作っていることを考えると、1467 年とか 1603 年とか知っていないと駄目かなと思うでしょう。勉強することには必ず意義があると、私は 41 歳のおっちゃんだから今は分かるけれど、当時の皆さんぐらいの歳のときには分かっていなかったから、あえなく受験で落ちてしまったんです。勉強については、そういう感じでした。

他方で、夢と希望は沢山持っていました。政治家になりたいと、そういうことも思ったりしていました。私はこういう夢を叶えたいと思うけど、それに対してやっている勉強というのがあまりにも関係ないように見えた。ものすごく関係あったんですけどね。そこに気づかなかった。そういうときだったように思います。

生徒Ｆさん：このような座談会とかでいろいろな地域を回っていると怒られたりすることもあるかと思いますが、やっぱり知事になって良かったと思うときはどういうときでしょうか。

知事：ちょっと格好をつけたことを言うかもしれませんが、高知県のためにという気持ちでとにかく一生懸命できるということです。それで朝から晩まで生きていけるというのは、ある意味幸せかもしれないなと思います。もともと高知生まれで、高知県が大好きという思いでいました。何か社会に恩返しがしたいという気持ちがたくさんあったので、逆に言うとそういう気持ち一辺倒で毎日仕事ができるというのは嬉しいなと思います。高知県の

ためにという気持ちで日々暮らしを立てていけばいいので、論理がすっきりしているわけです。これぐらい、ある意味吹っ切れたことはないです。マンデーブルーとか、そういうのはありますか。大人は、明日から月曜日で仕事かと思うと、日曜日の夕方の漫画とか見ると暗くなることがあるんですけどね。私も東京でサラリーマンだったときには、それがすごくありました。日曜日の夜、子供と一緒にアニメを見ては「あぁ」という感じでした。今は全くないですね。そういう意味じゃ吹っ切れましたね。とにかく高知県のためにと。

あともう１つ。自分でやりたいと信じることをやろうとするから、仕事をやらされてしているつもりが全くないです。吹っ切れたことがすごく良かったと思っております。

生徒Ｇさん：今まで生きてきて、一番嬉しかったことは何ですか。

知事：一番嬉しかったことは、妻と結婚したことでしょうか。一番嬉しかったことというのは、それぞれ嬉しさの違いがあります。全然違うタイプの嬉しさだと思います。妻と結婚できると決まったときはそれは嬉しかったし、長男ができたときは緊張感もありましたが、長男ができた親の喜びみたいなのがありました。それから私は当時から就職では大蔵省へ行きたいと思っていたので、就職の夢が叶ったときは嬉しかったし、もちろん知事になれたときも嬉しかったです。節目で行けば、結婚、子供、それから知事選挙、それから就職が決まったとき、そんな感じでしょうか。それぞれの喜びがあると思います。多分その嬉しいところの心の場所が違うみたいな、そんな感じがします。

（５）生徒代表あいさつ

本日はお忙しい中、私たちの仁淀高校においでいただき、ありがとうございました。今回発表しました総合学習の研究課題は、いずれもこの仁淀川地域を活性化するために取り組むものです。私たちは本当にこの仁淀川町が大好きです。そのことを知事さんにも知っていただき、いろいろな助言やご意見をお伺いしたことは私たちにとって、大変有意義な時間でした。それらのご意見をこれからの課題として取り組んでいきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

（６）閉会あいさつ（尾﨑知事）

本当に長時間誠にありがとうございました。皆さんの発表を聞かせていただいて、最初はお互い少し緊張をしていましたが、だんだん打ち解けて話ができて良かったと思います。

皆さんが発表された課題の中で２つぐらい目的があって、１つは大人が日頃地域活性化のためにとか、教育のためにとか、福祉のこととかで、いろいろと考えていることがあります。こういうことがネックになっているではないかなとか、ああいうことがあるかなとか。それを皆さんに質問をしてみたときの反応を私はものすごく知りたかったです。やはり皆さんは素直にパーンとその問題の本質を捉えておられる、やはりそこが問題だなと思うとともに、さすがこれだけの勉強をされている高校生の皆さんはすばらしい、そういうふう

に思ったところです。

それともう１つ。新しい視点というのをいろいろ教えてもらったなというような思いがすごくあります。県外にどんどん売っていこうという話もしましたが、やはりそれを身近な人に食べてもらいたいというトマトのお話なんかもそうかなと思います。生産者の皆さんのご意見も聞いてみないといけないことだと思いますが、他方で新しい視点だなというふうに思い、非常に勉強になったところです。

皆さんは本当に一生懸命頑張っておられて、すばらしいと思います。未来の高知県は皆さんの手にあるわけです。ぜひとも今の調子で頑張っていただきたいです。仁淀高校がなくなってしまうのがほんとに残念ではありますけれど、逆に皆さんの元気で、佐川高校も全部巻き込んで頑張ってもらいたいと思います。皆さんが持っておられる伝統をぜひこの地域の後輩の皆さんに受け継いでいただいて、これが高吾北地域全域に広がっていけばいいなというふうに思っております。今日はほんとにどうもありがとうございました。また今後ともよろしくお願いします。どうもありがとうございました。